

アーツサポート関西は、2019 年度、関西におけるメディアアートの振興と発展を目的に設立された「日本電通メディアアート支援寄金」より、関西を拠点に活動する 4 組のアーティストに対し、総額 100 万円を作品の制作費支援として助成した。

「日本電通メディアアート支援寄金」は、1947 年に大阪市阿倍野区で創業した日本電通株式会社が同社の創業 70 周年を記念しアーツサポート関西に設けたもので、情報通信インフラストラクチャーの構築や情報通信テクノロジーに関わる様々なソリューション開発などを行う同社の取り組みと深く結びつく、いわゆるメディアアートの可能性の拡大や新たな展開の促進を目的としており、関西で活動するメディアアーティストを対象に 2018 年から 21 年にかけて総額 300 万円の助成を予定している。

「宇宙盆栽プロジェクト」(美術)

助成先：宇宙盆栽プロジェクト

助成額：30 万円

場所：嶋臺ギャラリー「memento terra」展（京都市中京区）

実施期間：2020 年 2 月 14 日～16 日

活動概要：美学・メディア論の人文系研究者の岩城覚久と松谷容作およびメディアアーティストの森公一と真下武久 4 名によるプロジェクト。無重力の宇宙空間における植物の生育を「盆栽」という美的表現の観点から考察し、設定したパラメーターによるシュミレーションを行い、その結果を 3D モデルの CG で表現した。作品は京都の嶋臺ギャラリーで開催された「memento terra」展で展示された。



「untitled」(美術)

助成先：冬木遼太郎

助成額：23 万円

場所：東大阪市民美術センター（東大阪市）

実施期間：2019 年 11 月 20 日～12 月 1 日

活動概要：資本主義経済の最も根底にある価値の交換を鑑賞者に実体験させる作品として、鑑賞者が財布から取り出した 100 円玉を投入すると、天井から別の 100 円玉が降ってきてそれを持ち帰ってもらう自販機型マシンを制作。「作品」を介して現実の貨幣の交換を行うことで、貨幣経済の本質的意味への考察を促した。東大阪市民美術センターで開催された個展「それも美しい」に出品され会場内で稼働した。



「ソテツとてつもなく並」(美術)

助成先：小林椋

助成額：35 万円

場所：ギャラリー16（京都市東山区）

実施期間：2019 年 10 月 1 日～10 月 12 日

活動概要：小林の作品は、素朴な色と形状を持つ立体物に音や動きが付与され、見る者の感覚に働きかける独特の美しさをたたえる。2019 年に国際メディア芸術祭アルスエレクトロニカ（オーストリア）に招待。この作品は自動演奏装置であるリズムマシンの機械で自動演奏させるもの。「機械仕掛けを自己参照する機械」という AI 時代における、メディアアートのアナログ的拡張性を批評的に表現した。



「mitate (見立て)」(美術)

助成先：武田真彦

助成額：10 万円

場所：松栄堂「Nuit Blanche Kyoto 2019」(京都市中京区)

実施期間：2019 年 9 月 13 日～10 月 13 日

活動概要：電子音楽家として活動する武田は、京都で生まれ育ち、西陣織の作家を祖父に持つ。京都市内のさまざまな場所を会場に行われたアートフェスティバル「Nuit Blanche Kyoto 2019」に招待され、老舗のお香店を会場に、仏具のおりんとお香、電子音楽を組み合わせたメディアアート作品を制作。京都の伝統的な工芸と現代のメディアアート表現を融合させた展示を行った。

